

2025年4月吉日

BIPROGY 研究会
東北支部会員 各位

BIPROGY 研究会
東北支部

2025年度『東北支部研究活動』

メンバー募集のご案内

拝啓 日頃より BIPROGY 研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

BIPROGY 研究会では会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題や社会課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく、研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場などの目的としてご活用ください。活動を通じて自社へ活動成果を持ち帰っていただけるよう、研究グループ毎に BIPROGY グループ社員によるアドバイザー制度を設け、運営メンバー、事務局もしっかりとフォローいたします。

異業種交流での人脈、視野の拡大に活かしていただきたいと思います。
多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

【2025年度研究活動の目的】

- ・異業種交流（社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流）
- ・人材育成（課題解決、仮説検証、チームビルディング、プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション、コミュニケーション能力の向上）
- ・業務外分野探求への挑戦（失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト）
- ・働き方改革による新しい活動形態への挑戦
- ・活動成果の社外への発信（発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ）

「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格

BIPROGY 研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）
主体的に取り組む意欲のある方を募集いたします。

2. 研究テーマ

活動開始後にメンバー間で研究したいテーマを協議の上、決定いただきます。
テーマ案は「ご参考:2025年度研究活動東北支部テーマ案」をご参照ください。

3. 参加費

- 今年度研究活動費として、1 企業¥20,000 を申し受けます。
*参加人数にかかわらず 1 企業あたり¥20,000 です。
*参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
- 活動のための移動交通費・旅費等は、参加者の負担とさせていただきます。

4. グループの構成

- 原則 5~7 名程度で 1 グループを構成しますが、お申込み状況によって判断いたします。
- 構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選することとします。
- 活動には、BIPROGY グループより選出されたアドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

5. 年間スケジュール

開催予定日	開催内容
5 月 28 日 (水)	発足式&第 1 回会合予定 (対面)
9 月 5 日 (金)~6 日 (土)	サマースクール (中間報告):リーダー、サブリーダー対象
1 月末 予定	活動報告書提出
2 月上旬~中旬 予定	東北支部発表会
3 月 6 日 (金)	全国発表会

6. 活動期間と会合回数

- 活動期間は本年 5 月から翌年 2 月末までとします。(※全国発表会を除く)
- 期間中、原則月 1~2 回の会合 (半日) を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。
*参加者の方へ
業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありません。各メンバーの進行状況を考慮の上、無理のない計画で活動を進めてください。
*参加者の会社の方へ
参加者が活動しやすいよう、社内調整やバックアップにご協力いただきますようお願いいたします。
- テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくなるようなグループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めてください。

■発足式および第1回会合:

・日時:2025年5月28日(水)の15:00~17:00を予定しております。

・会場: BIPROGY株式会社 東北支店

※参加状況により、各メンバーのスケジュールを調整ご連絡いたします。

また、終了後に懇親会(17:30~19:30)を予定しております。

■サマースクール:

各グループリーダー、サブリーダーを対象に9月5日(金)~6日(土)にグループの中間報告をしていただくサマースクールを開催予定です。

■活動報告書提出:

来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。

*研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。

■発表会:

来年3月6日(金)に「研究活動成果発表会」として、グループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。

7. 活動運営について

■研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。

■会合方法はWebまたは対面のどちらでもお選びいただけます。状況によりグループ内でご判断ください。

対面会議の場合は、BIPROGY(株)東北支店及び参加メンバーの会社施設等を利用します。

■研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表していただくことがあります。

■特に優れた成果には、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。

■ご報告いただいた研究活動成果(研究活動報告書、プレゼン資料その他発表資料を含む)の著作権は著作者に帰属するものとします。但し著作者は、BIPROGY研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利(個人名・会社名・所属先の公開を含む)をBIPROGY研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法:5月21日(水)までにFormsよりお申込みください。

<https://forms.office.com/r/UYit8PV4MY>



申込 Forms QR はこちら

9. お問い合わせ先

BIPROGY研究会東北支部事務局 清水・稲生

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 JRE 東二番丁スクエア

E-mail: tohoku-box@biprogy.com TEL:022-706-2503



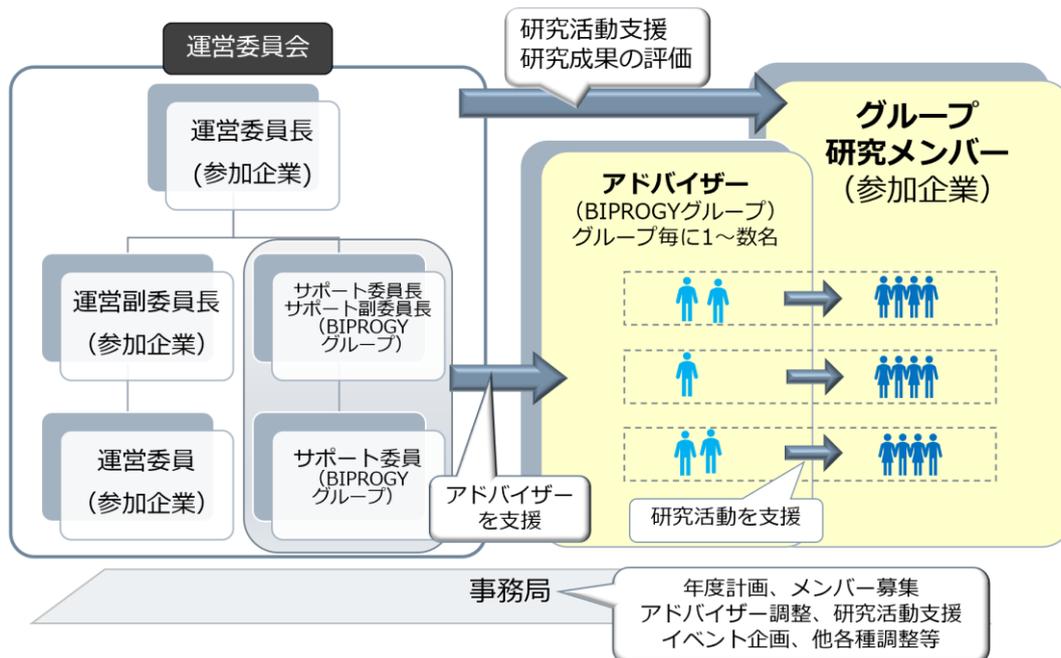
以上

ご参考:2025年度研究活動東北支部テーマ案

No.	キーワード	募集対象組織	推薦する理由ならびに活動内容(案) (100字～150字程度)
1	次世代型スマート・シティ	企業全般、情報システム部門	次世代型スマート・シティは、IoT、AI、ビッグデータなどの最先端技術を都市インフラに統合し、持続可能性と生活の質の向上を目指す革新的なコンセプトです。環境、エネルギー、交通、医療、教育など多岐にわたる分野を包括し、都市問題の解決や未来の生活様式の創造のために様々なアプローチが必要となり、実世界への適用可能性が期待されているテーマとなります。社会的インパクトの大きいテーマではありますが、身近な環境から何が出来るのかを議論する価値はあると考えます。
2	情報の信頼性/フェイクニュース	企業全般、情報システム部門	フェイクニュースにより情報の信頼性が低下し、真実を見極めることが難しくなっています。また、特定の意図を持って作成されることから偏った意見を強化し対立を深める可能性もあります。更にインターネットやソーシャルメディアの普及により、フェイクニュースが瞬時に広まり誤った情報が拡散されるスピードが速く修正・訂正が追いつかない状況です。企業や個人において情報の信頼性やリテラシーを如何に高めるかにつき、参加企業や参加者の意見をまとめて具体的なアイデアを検討する価値があるテーマと考えます。
3	リスクリテラシー、IT人材不足	人事部門、情報システム部門	人材不足が深刻な問題と取り上げられているが適切な手立てが打たれていない中、柔軟な採用戦略や労働環境の改善を図るの適切な対策とは何でしょうか。その様な中、DX化により広まった人材戦略=リスクリテラシーは、社員スキルの向上や社員の離職防止のメリットとして注目が高まっています。各企業が抱えている課題(検討テーマ)として取り上げる意味があると考えます。
4	AIによる業務効率化	情報システム部門	業務プロセスの自動化や効率向上のために、AIを活用しない手はない状況です。しかしながらAI技術の進化が急速なため、キャッチアップが大変な状況でもあります。AIの適用検討に必要なスキルとなってきたり、各個人・各社でのAIツールの導入事例や活用法の調査を通じて、より良い活用法(課題解決)をまとめる事は、実践的なテーマと考えます。
5	パートナー戦略	企業全般、情報システム部門	自社のみでは業務が成り立たない、スピード感が上がらない時代になっており、ビジネスパートナー(協力企業)との友好的な関係性が求められています。パートナーとの関係性を構築する為には、まずは自社の戦略を固める必要があり、自社の情報を可視化・分析するスキルが求められてきています。パートナー戦略検討のヒントを考える場として、この場を活用するのは如何でしょうか。
6	リモートワークの最適化	情報システム部門	リモートワークが定着する中、効果的なコミュニケーションやチームワークの方法が求められています。最新のリモートワークのベストプラクティスを共有し、考え方やツールの活用法を通じて、新しい働き方(コロナ明けの会社帰りの昨今も踏まえ)での効果的なリモート環境構築方法を議論してみるの価値があると考えます。
7	AI拡張型開発(AI拡張型ソフトウェアエンジニアリング)	情報システム部門	AI拡張型開発とは、ご存じの通りAIがアプリケーションの設計、コーディング、テストを支援する開発手法です。開発者の生産性を飛躍的に高め、効率を上げる開発手法として現在注目されています。同時に、エンジニア不足(人手不足)を解消する開発手法としても期待されていますので、検討する価値があるテーマと考えます。
8	クラウドセキュリティの強化	情報システム部門	企業でのクラウドサービス利用の増加に伴い(複数社のサービス利用も併せ)、クラウド特有の脆弱性への対応が重要となってきています。クラウド利用に際し、シームレスなセキュリティ統合を目指したツールや技術の研究が求められている時代になってきました。
9	デジタル・ヒューマン	企業全般、情報システム部門	デジタル・ヒューマンとは、AI、CGなどの先端技術を用い人間そっくりの姿や人間に近い動きを再現する3Dモデルを差します。エンターテインメント、教育、医療など幅広い分野での応用可能性があり、人間とテクノロジーの新たな関係性を探求できると期待されている一方、倫理的・社会的課題も内在している領域です。未来社会のインターフェースとして注目度が高い点から、各種課題解決への可能性として夢が広がる分野と考えます。
10	生成AIの活用とそのリスク	企業全般、情報システム部門	生成AIや大規模言語モデル(LLM)が各企業で活用され始めた一方、攻撃者がこれらの技術を悪用するリスクも増加しており、企業がこれらのリスクを防御するために何が必要かを検討する事も求められています。AIの良い面だけでなく、リスクへの対応検討も重要なテーマと考えます。
11	生成AI機能比較	企業全般	東北FORUMの講演にもありましたが、生成AIの機能が飛躍的に向上していることを踏まえ、最新の利活用事例について研究する。ChatGPT、Microsoft Copilot、google Geminiなど代表的な生成AIの機能比較など実施したい。
12	生成AIを活用したデザイン製作	企画	商品デザインの完成までにかかる時間は長く、検討したデザインが万人受けするかを調査するにも時間も要する。また、検討過程でもデザイン提案を繰り返し、ブラッシュアップすることになるが、修正に要する時間も必要となる。そこで、生成AIを活用したデザイン設計の可能性について確認しデザイン製作についての効率化について検討してみる。
13	生成AIを活用した防災	防災	いつ起きるか分からない災害への備えについては日常意識の中にとどめておくことは困難である。そこで、過去に発生した災害をカレンダーと連動して、その時に何が起こったか?何が不足だったか、取られた対策は?など災害への備えを日々教えてくれるアプリを検討してみる。
14	AI技術(生成AI含む)	企業全般	AI技術については、生成AIを含め高度化しており、以前の単なるデータ分析にとどまらず、意思決定等を支援するような「エージェントAI」の時代に移行するとも言われている。汎用人工知能(AGI)を含め、社会課題解決へのアプローチを探ってみてはどうか?
15	IT人材不足(東北)	情報システム、人事、経営層	IT人材不足が深刻化しており東北地方の1企業として採用するのは難しくなっている。東北での勤務、IT相場と企業給与の差など、この課題への取り組み方を研究する。
16	人材育成	企業全般	近年、少子高齢化によって人材不足が顕著であることや、人材育成についても大きな課題となっており、各企業においては様々な教育プログラムが準備され取り組まれている。一方で、人材自身が自らの特性(得意、不得意、できること、できないこと)の認識がなされないまま一方的に教育を受講しているのではないかと疑問である。自分の特性を理解することで、学ぼうとする意欲の向上や成長の効率につなげることができないかを検討する。
17	セキュリティ:ランサムウェア被害にあったら	情報システム部門	ランサムウェアは年々巧妙化しており、ターゲットとして狙われたら回避が難しいとも言われている。もし被害にあった場合の具体的な対応手順など研究する。(専門家へ相談、警察への通報、遮断、隔離、復旧など、できれば実例を踏まえて研究する)
18	サイバーセキュリティ	情報システム部門	サイバーセキュリティに関しては、AI技術や量子コンピューティングの進化と並行して益々重要性が増してきている。サイバーセキュリティ対策については、高度なAI技術も含めたAIセキュリティシステムが求められると考える。
19	『2025年の崖』問題	情報システム部門	経産省のDXレポートでも示されたキーワードで、日本企業が直面しているデジタル化課題。2025年までに企業のレガシーシステムが更新されなければ、大きな経済損失が発生するリスクが取り上げられているが、真偽のほどを調査し今後の経営戦略への影響度を予測する。IT人材不足も関連する内容。
20	人間とマシンの相乗効果(共存)	企業全般	「空間コンピューティング」は昨今、AR・VR・MRといった〇〇現実の拡大化やAI技術の進歩により注目を集めている。いろいろな分野での没入型デジタル環境を実現しており、新たなビジネスモデルの可能性をサポートしている。こういった技術などを使い社会課題解決や新たなビジネスモデルの創出ができるか?検証してみてもどうか?
21	ヘルスケア	企業全般	今後ますます高齢化が進む日本において、カラダへの気遣い、健康のための取り組みを検討して、行動を起こすことが必要だとはいえませんが、反面このような行動が義務的であったり、何かを犠牲にして我慢して取り組むまなければならないと感じること少なくはないと思う。そこで、楽しく継続的に健康への取り組みができるようになるためにはどうしたら良いのかを検討する。

■研究活動を支える体制

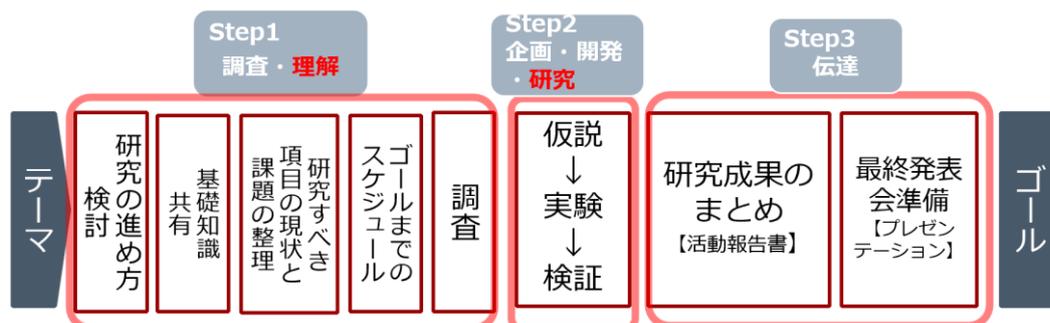
▶ 皆様の研究は、運営委員、サポート委員、アドバイザー、事務局が支援



■スケジュール



■研究活動とは



サマースクールの様子



全国発表会の様子



BIPROGY研究会とは

BIPROGY（旧日本ユニシス）グループのユーザ会です。
BIPROGYグループのお客様をはじめ広く会員を募り技術情報の提供のみならず、
会員相互の交流の場として50年以上に亘りさまざまな活動をつづけています。

研究活動とは

5～10名程度で構成されたグループで、約10か月間お好きなテーマの研究に取り組む活動です。
活動量は、参加されるメンバー間にてご調整いただけます。
BIPROGYグループ社員はアドバイザーとして、皆さまの活動をサポートいたします。

研究活動のメリット

- ・ アプリの開発やリーダー役など、業務での経験がないことにも挑戦できる
- ・ 他社や異業種の人と交流することで知見が広がる
- ・ 自分の知識や経験、技術（資料作成、動画作成など）を発揮できる

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月	3月
メンバー募集		全国 カンファレンス		サマースクール・ 中間発表会 <small>(例年8月下旬～9月下旬)</small>		全国 フォーラム			支部 発表会	全国 発表会 <small>(例年3月第一金曜)</small>
	発足式									
グループ活動										

前年度の研究活動にて、
評価の高かったグループに
ご登壇いただけます。

活動進捗や課題など、
全国のグループと
意見交換を行います。
(2日間)

全国のグループが集まり、
10か月の成果を披露します。
最優秀賞のほかに
チャレンジ賞、発表賞など
多角的に審査し表彰します。

東北グループ これまでの研究成果

年度	キーワード	報告書タイトル
2021	地域活性化、 ランダム（ガチャ）機能	よりみちアプリ「る.る.る。」 ～出かける、すすめる、立ち寄れる。～ 
2022 	親子の買い物支援、子育て支援、 ノーコード	買い物アドベンチャー ～ママ！パパ！明日もスーパー行かない？～ 
2023 	お土産購入支援、DX推進、 ローコード	ラクラクお土産くん ※  ～乗換時間でパパッと購入！～ 
2024	教育	親子のお片付け教育と親のストレス軽減 ～アプリで楽しく、お部屋がスッキリ、心もニッコリ～ 

※エッカード賞とは…BIPROGY研究会の1年間の活動（研究活動、論文活動、各支部の活動など）の中から、特に優れたグループや個人に贈られる最高栄誉賞です。

詳細は募集案内をご覧ください

